

経済産業省生産動態統計調査及び熊本県生産動態統計調査用還元資料

熊本県鉱工業の最近の動き

平成30年7月～9月期

熊本県企画振興部 交通政策・情報局

統計調査課

熊本県鉱工業指数の作成概要

1 目的

熊本県の鉱工業の動向を総合的に把握することを目的とします。

2 基準年次

平成22年(2010年)を基準年とします。

3 作成の範囲

日本標準産業分類の鉱業及び製造業を基礎とした産業の生産指数(付加価値額ウェイト)、生産者出荷指数及び生産者製品在庫指数について、原指数と季節調整済指数を作成しています。

4 分類

日本標準産業分類を基本とした業種分類と、採用品目の用途により財別に格付けした特殊分類の2通りの方法によります。

5 採用品目

生産及び出荷は143品目、在庫は94品目採用しています。

6 ウェイト

生産指数、出荷指数及び在庫指数のウェイトは、基準年次の付加価値額、生産者出荷額及び生産者製品在庫額の鉱工業に対する各品目の1万分比になっています。

7 作成の方法

指数の算式は、個別系列を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均法(ラスパイレス算式)で行っており、算式は次のとおりです。

$$\text{個別指数} = \frac{\text{比較時数量}}{\text{基準時数量}} \times 100.0$$

$$\text{総合指数} = \frac{(\text{個別指数} \times \text{基準時ウェイト})\text{の総和}}{\text{基準時ウェイトの総和}}$$

8 季節調整

季節調整とは、季節指数で原指数を割ることによって季節変動を除去した系列の指数にすることです。季節調整の方法は、米国センサス局のX-12-ARIMAを使用しています。

9 資料

経済産業省生産動態統計調査、熊本県生産動態統計調査、薬事工業生産動態統計調査(医薬品の基礎データ)及び既存の資料によります。

10 その他

(1) 統計表中等の記号は次によります。

「-」 該当がないもの

「0」 単位未満のもの

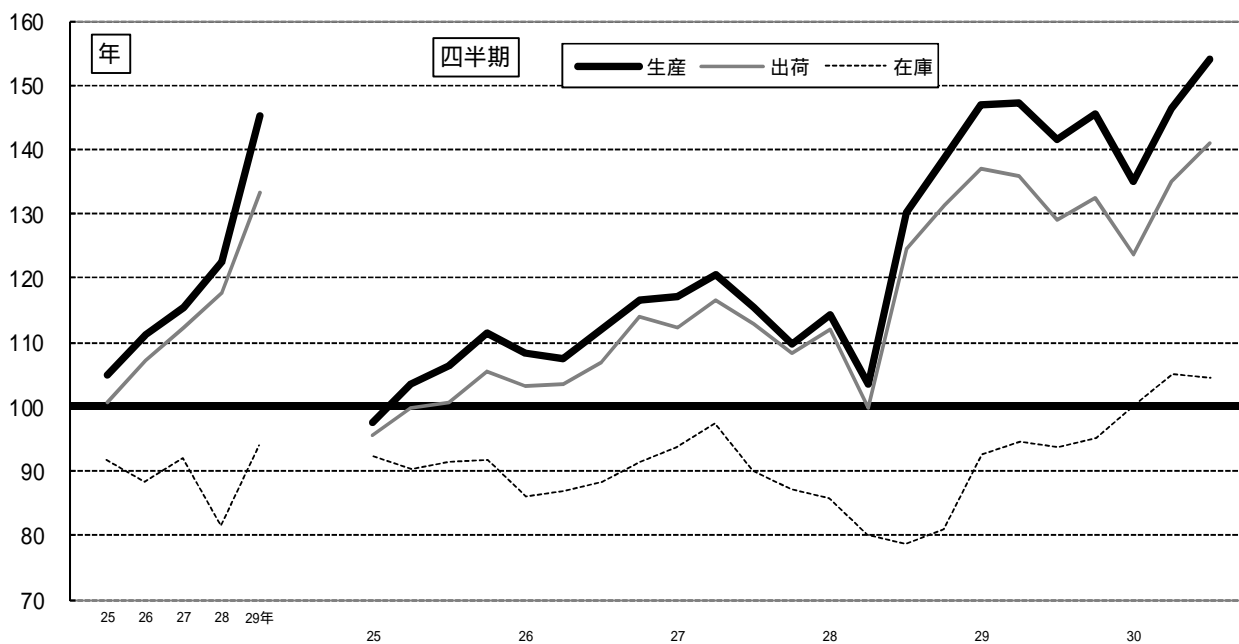
「」 負数(マイナス)のもの

「x」「」 統計の秘密保護の立場から、特に内容を秘匿したもの

(2) 数値の単位未満は四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合があります。

(3) 季節調整済指数は時系列ごとに季節調整を行うため、合計と内訳は一致しない場合があります。

鋳工業指数の年、四半期別推移



(年は原指数、四半期は季節調整済指数 平成22年 = 100)

〔平成30年 期の鋳工業指数四半期別動向概要〕

【生産】 生産指数は、前期比5.2%増の154.1で2期連続の上昇となりました。業種別では、電気機械工業や輸送機械工業などが上昇し、はん用・生産用機械工業や化学工業などが低下しました。

【出荷】 出荷指数は、前期比4.5%増の141.0で2期連続の上昇となりました。業種別では、輸送機械工業や電気機械工業などが上昇し、はん用・生産用機械工業や金属製品工業などが低下しました。

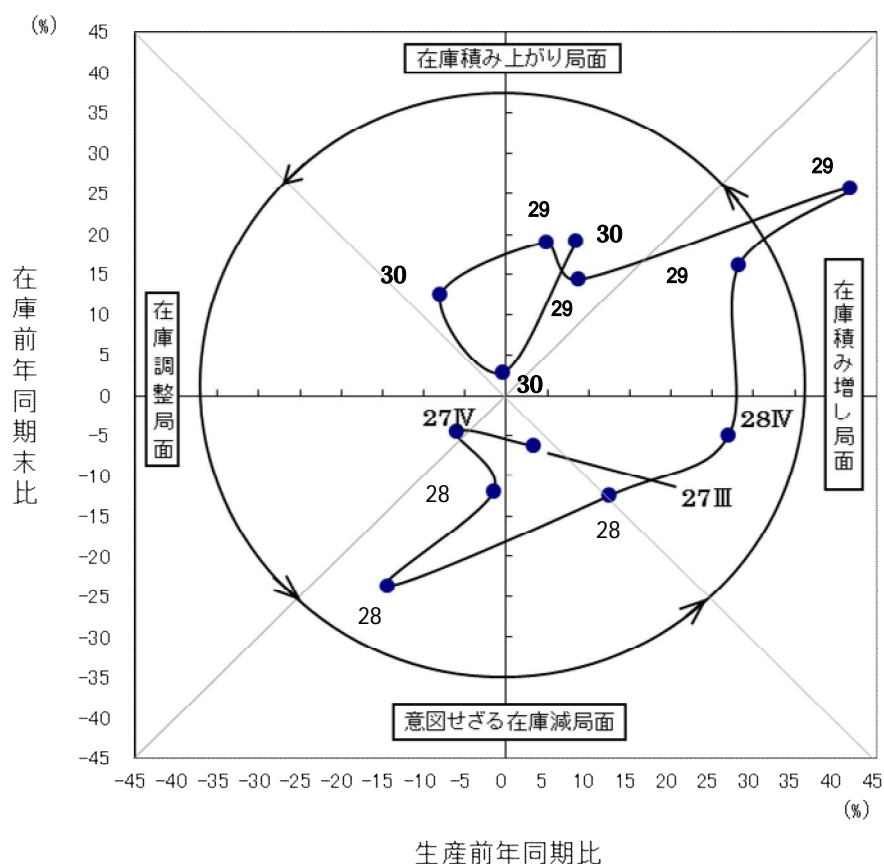
【在庫】 在庫指数は、前期比0.8%減の104.4で4期ぶりの低下となりました。業種別では、金属製品工業や輸送機械工業などが上昇し、食料品・たばこ工業や化学工業などが低下しました。

鉱工業指数の推移(平成22年 = 100)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成29年		平成30年		
				期	期	期	期	期
生産指数	115.4	122.5	145.3	141.6	145.5	135.1	146.5	154.1
前期比				3.7	2.8	7.1	8.4	5.2
前年(同期)比	3.7	6.2	18.6	8.9	4.8	7.9	0.4	8.6
出荷指数	112.2	117.6	133.4	129.1	132.4	123.8	134.9	141.0
前期比				5.0	2.6	6.5	9.0	4.5
前年(同期)比	4.8	4.8	13.4	3.7	0.9	9.4	0.7	8.9
在庫指数	91.9	81.4	93.9	93.6	95.1	100.3	105.2	104.4
前期比				1.1	1.6	5.5	4.9	0.8
前年(同期)比	4.2	11.4	15.4	18.7	17.4	8.1	11.2	11.7

年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による。平成30年 期は速報値。

在庫循環の動き



今期(30年 期)の動きを在庫循環図で見ると、生産(原指数)は前年同期比で8.6%増、在庫(原指数)は前年同期末比で19.1%増となりました。

今期は、「在庫積み上がり局面」に位置しています。

在庫前年同期末比・・・昨年と今年の各3, 6, 9, 12月の在庫指数(原指数)を比較したもの。

在庫局面の意味

- ・意図せざる在庫減局面

景気拡張期に入ると、需要の増加が企業予測を上回り、増産しても需要に追いつかず、一時的に在庫が減少する。

- ・在庫積み増し局面

景気拡張期が長くなってくると、企業は将来の更なる需要増に備えて増産し、在庫を積極的に積み増そうとする。

- ・在庫積み上がり局面

景気の山を越して後退期に入ると、需要が企業予測を下回り、需要の減少速度に減産が追いつかず、在庫が積み上がってしまう。

- ・在庫調整局面

景気後退期が続くと、企業は更に減産を進め、積み上がった在庫を減らそうとする。

業種別の当期(30年 期)の動向

業 種	当 期 の 特 徴	前 期 比		
		生産	出荷	在庫
鋁工業総合	前期比 生産5.2%増、出荷4.5%増、在庫0.8%減 前年同期比 生産8.6%増、出荷8.9%増、在庫11.7%増			
鉄鋼業	生産は4期ぶりの低下、出荷は3期ぶりの低下、在庫は2期連続の低下			
非鉄金属工業	生産は2期連続の低下、出荷は2期連続の低下、在庫は5期ぶりの低下			
金属製品工業	生産は4期ぶりの低下、出荷は4期ぶりの低下、在庫は3期ぶりのの上昇			
はん用・生産用機械工業	生産は4期ぶりの低下、出荷は4期ぶりの低下			x
電気機械工業	生産は2期連続の上昇、出荷は2期連続の上昇			x
電子部品・デバイス工業	生産は2期連続の上昇、出荷は2期連続の上昇、在庫は6期連続の上昇			
輸送機械工業	生産は2期連続の上昇、出荷は2期連続の上昇、在庫は3期ぶりのの上昇			
窯業・土石製品工業	生産は2期ぶりの低下、出荷は2期ぶりの低下、在庫は2期連続の低下			
化学工業	生産は2期ぶりの低下、出荷は横ばい、在庫は2期ぶりの低下			
プラスチック製品工業	生産は2期ぶりのの上昇、出荷は2期ぶりのの上昇、在庫は3期ぶりのの上昇			
パルプ・紙・紙加工品工業	在庫は4期ぶりの低下	x	x	
繊維工業	生産は2期ぶりの低下、出荷は2期連続の上昇、在庫は3期ぶりの低下			
ゴム製品工業	生産は3期ぶりのの上昇、出荷は2期連続の上昇、在庫は3期ぶりの低下			
木材・木製品工業	生産は2期ぶりの低下、出荷は2期ぶりの低下、在庫は2期ぶりのの上昇			
食料品・たばこ工業	生産は2期連続の低下、出荷は3期ぶりの低下、在庫は3期ぶりの低下			
その他の工業	生産は4期ぶりのの上昇、出荷は4期ぶりのの上昇、在庫は3期ぶりの低下			
鋁業	生産は2期ぶりの低下、出荷は2期連続の上昇、在庫は3期連続の低下			

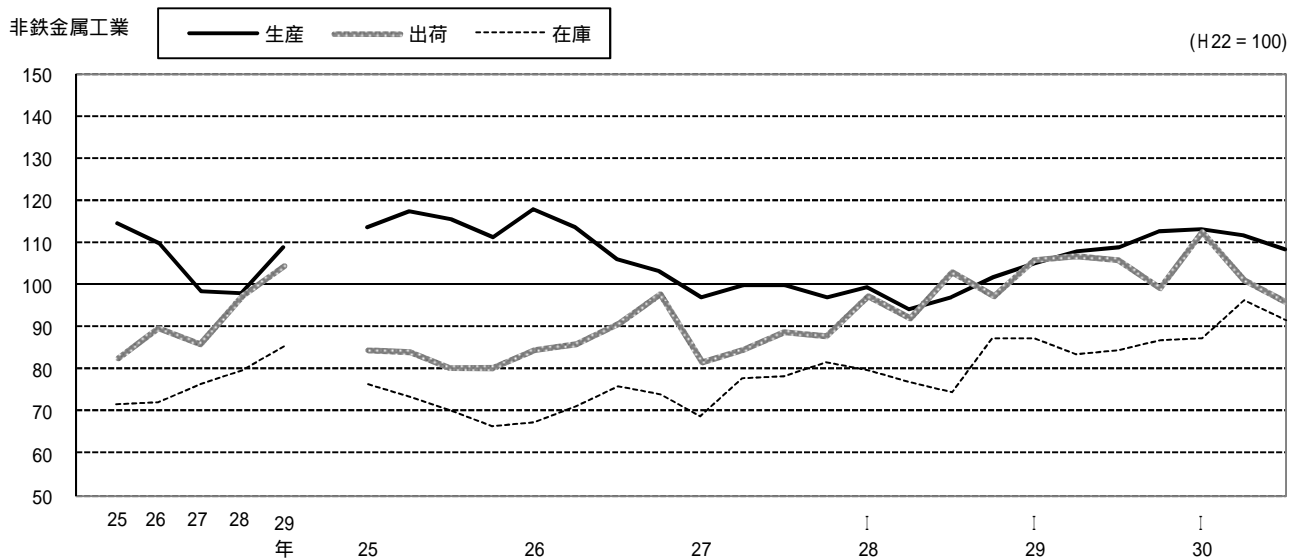
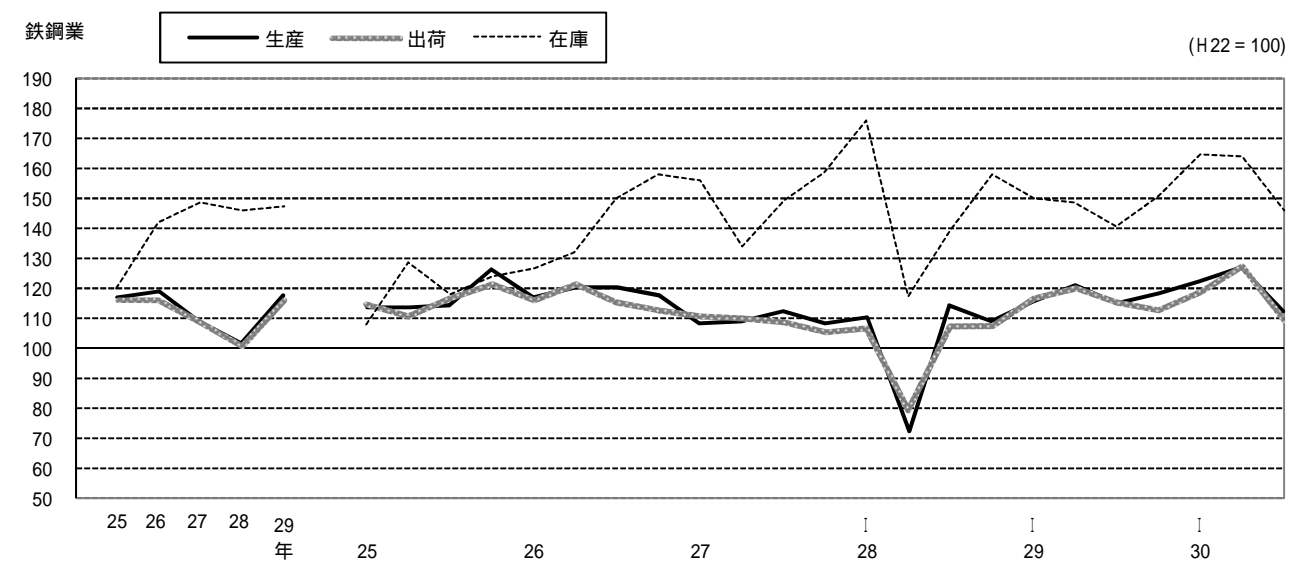
「前期比」、「前年同期比」欄の「↑」は上昇、「↓」は低下、「→」は横ばいを表します。

前年同期比			品目別生産動向	
生産	出荷	在庫	主な前期比上昇品目	主な前期比低下品目
			-	
			-	建築用金属製品
		X		特殊産業機械
		X		-
			集積回路	
				コンクリート・セメント製品
			医薬品	
			プラスチックフィルム	工業用プラスチック製品
X	X			
				衣類
			合板	一般製材
			飲料	その他の食料品
				印刷業
			-	非金属鉱業

業種別生産・出荷・在庫指数の推移

以下のグラフは平成22年を基準年(H22=100)として、平成25年 期から最新期までの業種別の生産・出荷・在庫指数(年別は原指数、四半期別は季節調整済指数)の推移を表しています。

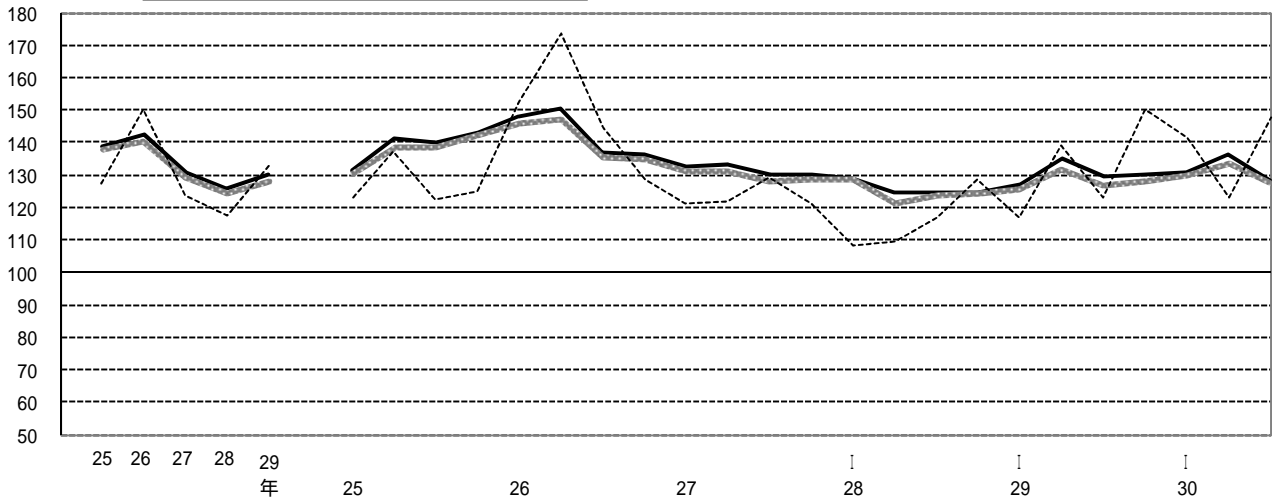
注)変動の幅に応じて縦軸の目盛がグラフによって異なります。また、秘匿されている系列は除きます。



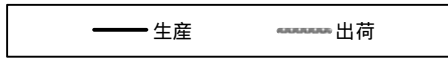
金属製品工業



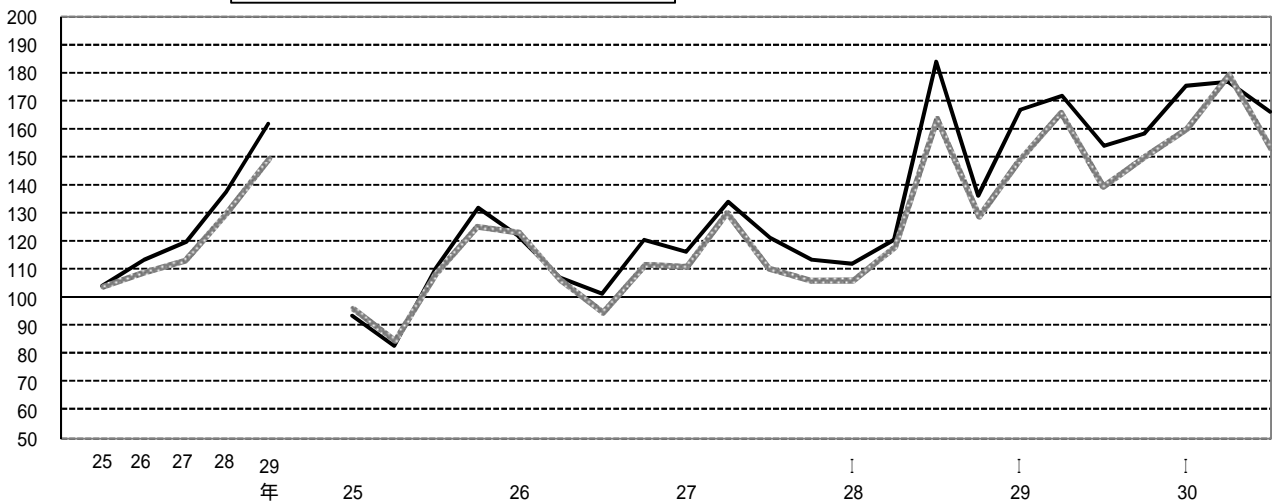
(H22 = 100)



はん用・生産用機械工業



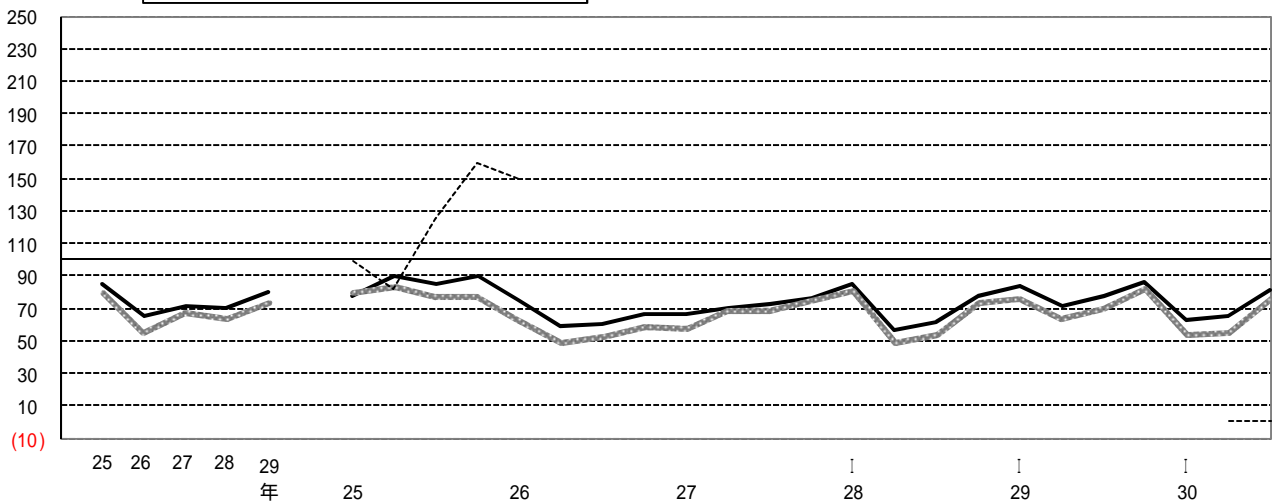
(H22 = 100)



電気機械工業



(H22 = 100)

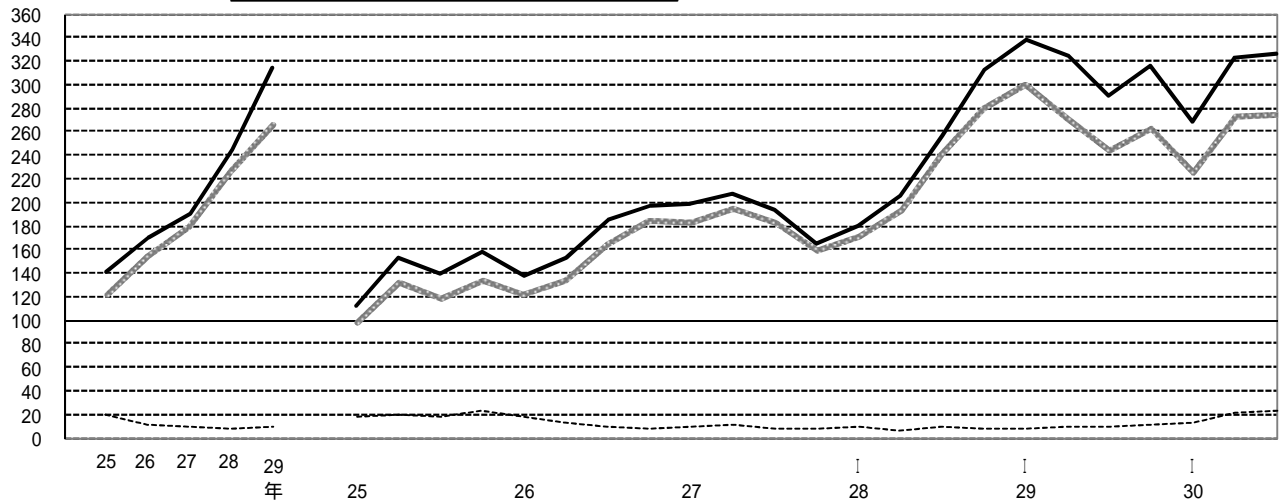


(10)

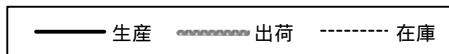
電子部品・デバイス工業



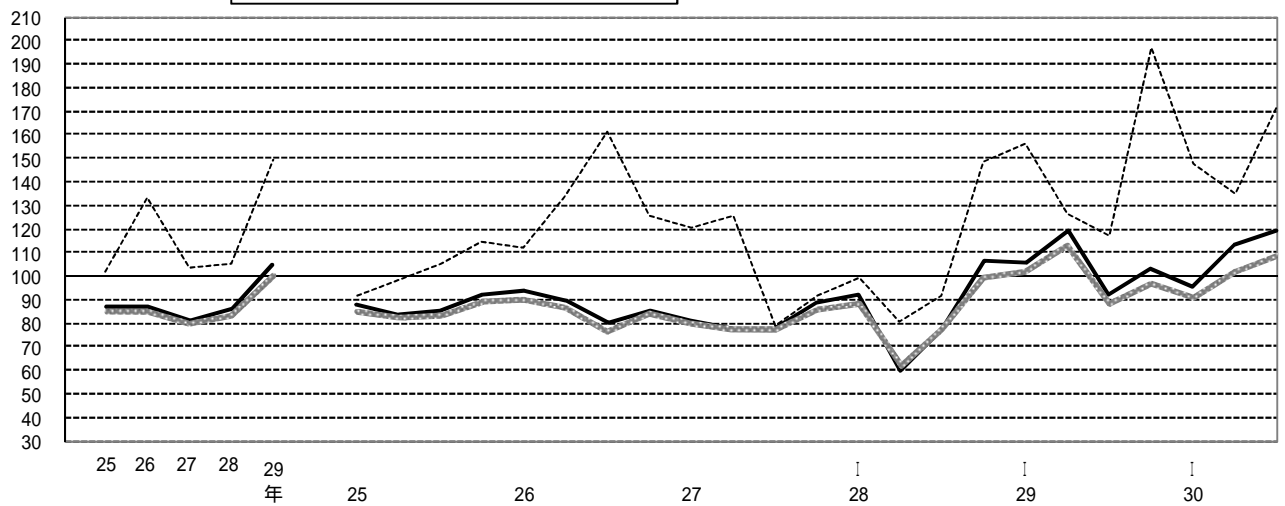
(H22 = 100)



輸送機械工業



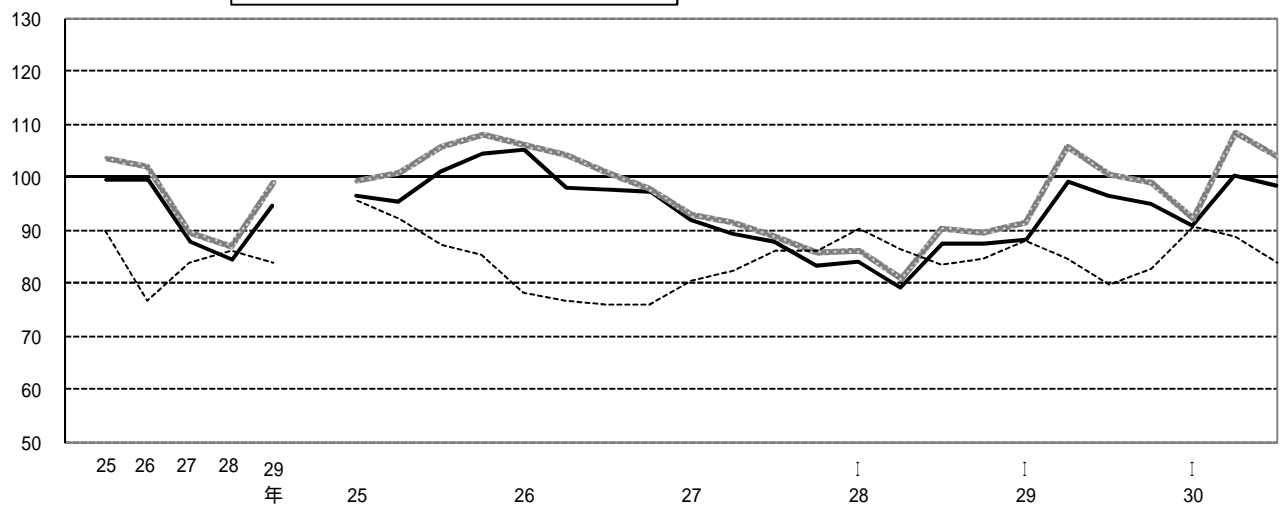
(H22 = 100)



窯業・土石製品工業



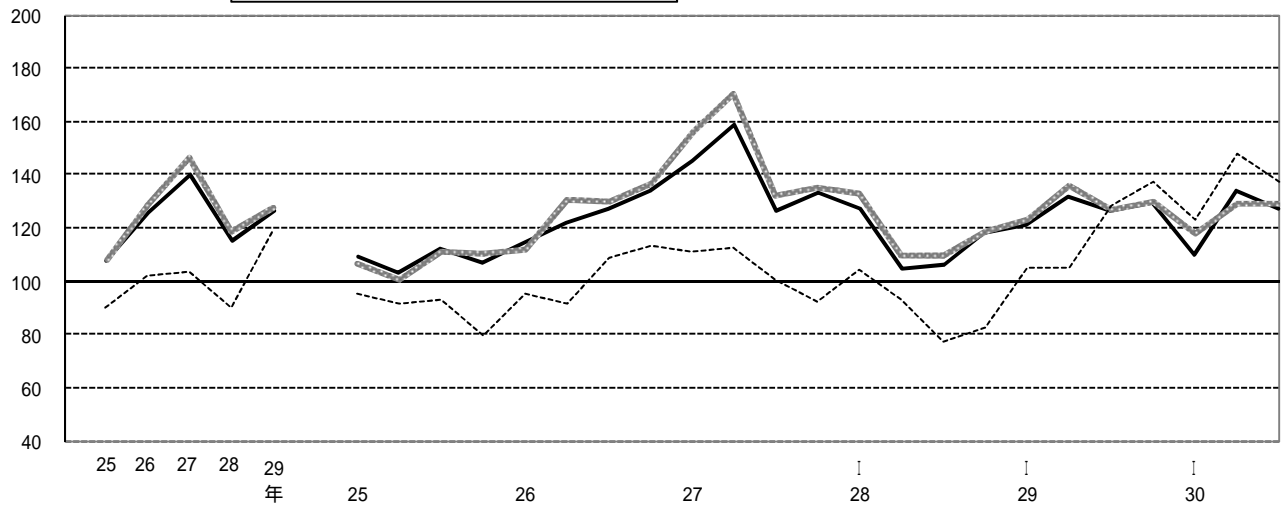
(H22 = 100)



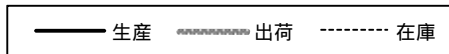
化学工業



(H22 = 100)



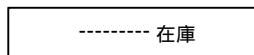
プラスチック製品工業



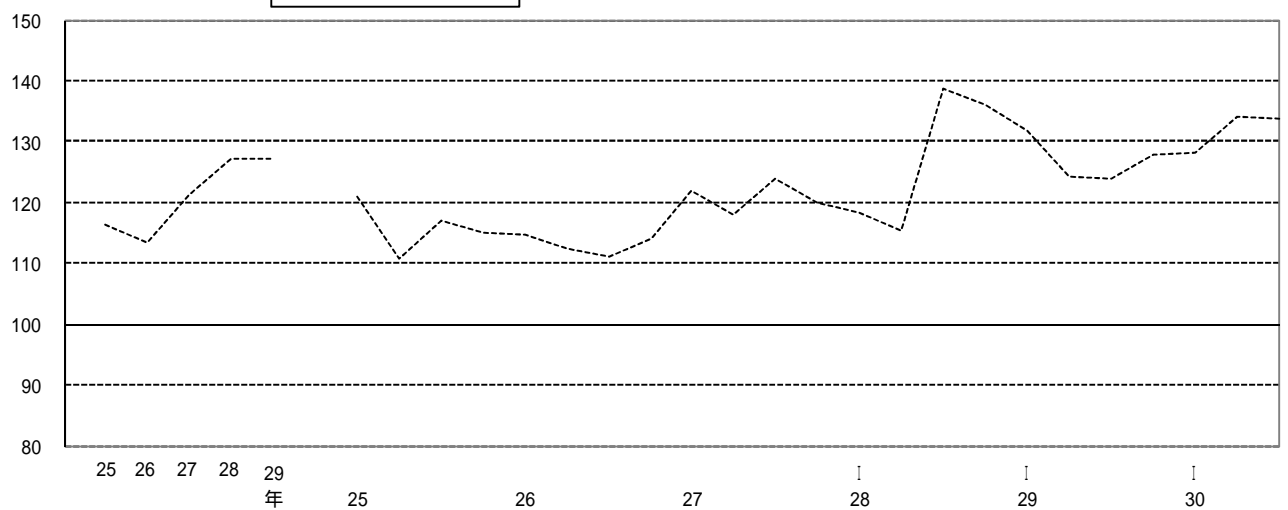
(H22 = 100)



パルプ・紙・紙加工品工業



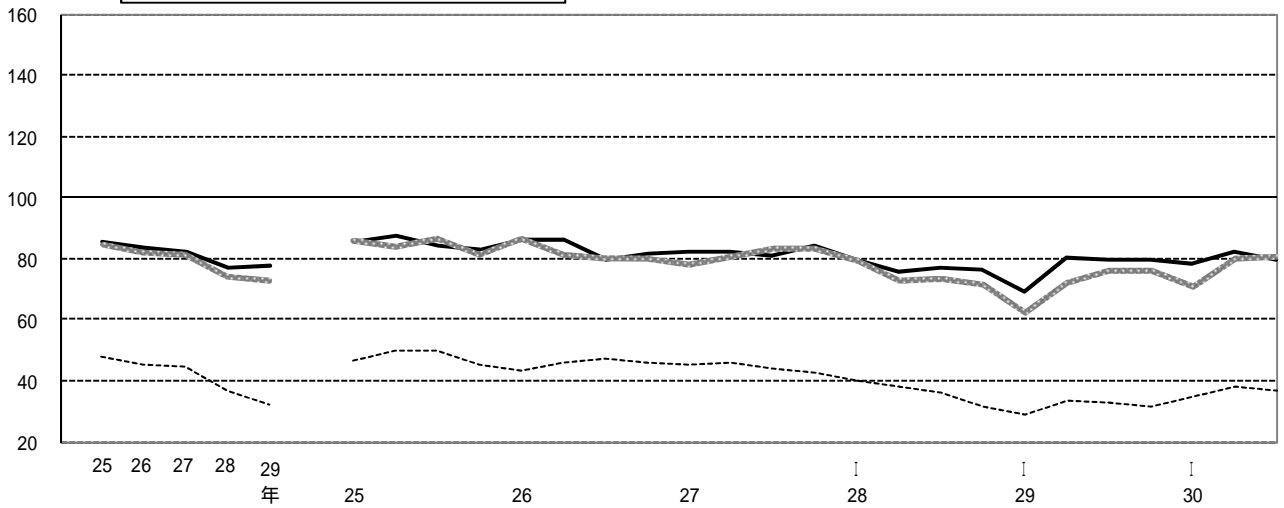
(H22 = 100)



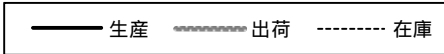
繊維工業



(H22 = 100)



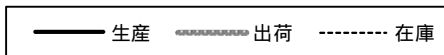
ゴム製品工業



(H22 = 100)



木材・木製品工業



(H22 = 100)

